平成 14 年 11 月 5 日現在

淀川水系流域委員会 猪名川部会現地意見交換集会 結果概要

開催日時：２００２年9月２１日（土）　１３：３０～１６：４５
場　　所：川西市商工会館　４階多目的ホール
参加者数：委員１０名（うち１名は部会長の要請により参加）、招聘者３組（６名）
一般傍聴者４４名

１．意見交換概要

「中間とりまとめ」の概要を報告した後、猪名川流域の住民 3 組を招聘し、各 20 分間流域での活動や問題についてご意見をうかがい、委員との意見交換を行った。

２．主な報告と意見

①止々呂美地域まちづくり協議会会長　奥村実氏、上止々呂美自治会会長　酒井精治氏、下止々呂美自治会会長　塩山慶司氏

「止々呂美地域まちづくり協議会」の成り立ちについて話があった後、余野川ダムと周辺の住宅開発についての説明があった。

〔説明要旨〕

〇地域活性化に向けての動き

・止々呂美地域は箕面市の北部に位置する人口 500 人ほどの集落。箕面市の市街地とは山間地域によって分断されているため、市街地としての整備が遅れ、住民の高齢化、過疎化も著しい。同地域では、地域の活性化を図るため、民間主導による住宅開発計画を進めることにし、昭和 49 年に先祖代々守り続けてきた西山を民間企業に売却。活性化へ向けての第一歩を踏み出した。

・一方で、昭和 52 年、旧建設省による「余野川ダム建設」の計画が浮上。住宅開発計画が中止されることを恐れた地元住民は、当初、絶対反対の姿勢をとった。しかし、治水を推進するという立場で、ダム建設に対する国・大阪府の強い要請があったことから「ダム湖周辺住宅開発の早期実現」「余野川ダム及び周辺の住宅開発と整合のとれた既存集落のまちづくり」を絶対条件に基本協定を締結し、ダム建設計画を了承した。地域を流れる余野川は、豪雨の際には大きな石が流れ、土砂崩れを引き起こしてきた「暴れ川」。自然を守ることは大事だが、時には自然は人間に牙をむくことを住民たちは知っていた。

〇遅々として進まないダム建設・住宅開発

・しかし今も、止々呂美地域の現状は変わっていない。西山を売却して約 30 年、ダム計画が持ち上がって 20 数年。導水路トンネル工事など関連工事は進んではいるが、ダム本体の建設や住宅開発など、地元の要望は遅々として進んでいない。

・地元を置き去りにした行政の姿勢に、住民は不安を抱いている。行政の都合で翻弄される

ことは決して許されるものではない。1 日も早く、住民が望む止々呂美地域のまちづくりをお願いしたい。

（主な意見交換）

・宅地開発の計画内容を具体的に教えてほしい。（委員）

→開発面積は計画当初 700ha 以上の止々呂美地域のうち 314ha だったが、大阪府の事情により約 100ha 強に縮小される予定。人口は 1 万人程度を見込んでいる。特色としては、通常の宅地とは違った、弱者に優しい町。つまり子どもからお年寄りまでが暮らせるエージレスタウン、現代風なまちづくりであること。さらに、ダムと一体化した景観の良さと、山からの吹きおろす風がダム湖の水面の影響で夏は涼しく、冬は暖かいという付加価値もあり、グレードの高い宅地を目指している。（発表者）

→その計画は行政側から提示があったのか。それとも地元が要望したのか。（委員）

→計画が動き出した 30 年前は民間開発で進んでいたのだが、市が民間企業による乱開発を危惧して、市と府が協議して公的開発に変わった。先ほど話したエージレスタウンという構想は行政による提案で、地元はその提案に賛成したいきさつがある。（発表者）

・初めはダム建設に反対されたそうだが、先ほど言われた「水と緑の健康な街」、「弱者にも優しい街」は、ダムがなければできないのだろうか。例えば長良川のように、ダムがなくてもすばらしい景観の街がある。ダムのない今の川の状態で、十分理想の街が計画できると思うが。（委員）

→府などから提示されたイメージ図によれば、ダム湖周辺から始まって、山の傾斜を利用してだんだん高いほうへ宅地が造成される。住宅からはダムも見ることができるし、場合によっては川の流れも見えるかもしれない。私たちはダムがあり、そのうえレジャースポットが誕生して都会に住む人が遊びに来てくれる街を望んでいる。またそのような場所が近くにあることが、グレードの高い住宅の要素となると思う。（発表者）

②池田市神田小学校教諭　西 義史氏（池田 NPO クワガタ探検隊 主催）

地域での活動について話した後、自作の紙芝居「コクワの冒険」をスライドで紹介した。

〔説明要旨〕

○クワガタムシを通して多彩な活動を

・猪名川水系にオオクワガタが生息していることを知って以来、クワガタムシに魅了され、平成 5 年にボランティアグループ「クワガタ探検隊」を結成。「クワガタムシを通じて子供たちに自然に触れ合ってほしい」という思いを原動力に、これまで 100 回を超える観察会や講習会を開いてきたほか、猪名川で子どもたちとワンド作りに取り組むなど精力的に活動している。

・紙芝居「コクワの冒険」は、「勇気」という名のコクワガタが自然の中でしなやかにたく

ましく生きていくという話。勇気（コクワガタ）と敏明（人）のふれあいを通して、人と自然とが共存共栄していくための一つの方途を描いている。

〇猪名川とクワガタムシの関係性

・淀川・大和川水系にもオオクワガタはいないのに、猪名川水系だけには住んでいる。その理由はわからないが、クワガタムシにとって猪名川の河原は里山の連続だからかもしれない。

・猪名川をよりもっと人と自然との共生の場にするためには、魚釣りやカヌー、ボート遊びなどを復活させるべきだ。さらに、水生生物が共存できるようなワンドや、昆虫類が育ち人間も遊べる広い河原をつくるべきだろう。

（主な意見交換）

・「余野川ダムの建設について反対だが、ダムを作ることで自然との共存共栄の方向があるのではないか」と話していたが、何か方策や名案はあるか。（委員）

→教育者の立場としては、今、非常に子どもの自然離れを心配している。先日小学校の子どもに将来もこの街で暮らしたいかというアンケートをとったところ、100 人中 85 人が「どこかに引っ越したい」と答えていた。基本的にダム建設には反対だが、自然豊かな地にダムが完成することによって、多くの人が自然と触れ合える「場」が広がる。教育的な方策となるが、子どもが家族とともに自然を体験できる広場の確保が不可欠ではないか。（発表者）

・用水路近くにもクワガタムシは生息しているのか。またクワガタムシが猪名川に多く生息する理由をどう考えているか。（委員）

→人工的に作られた神田用水付近でも生息している。理由は ①近くに水がある ②周りにまばらに木が生えていて風通しのよい ③日光がよくあたる ④周りに樹液を出す木があるという、クワガタムシが住める 4 つの条件が揃っているからだと思われる。猪名川にクワガタムシが多い理由は、猪名川が基本的に里山を有する里川であることと、オオクワガタに関して言えば田んぼや山や川があるゆるやかな勾配の山、いわゆる人と自然が共存共栄してきた里山が生育に合っていたのではないか。

（発表者）

③環境川西街づくり協議会代表理事　管野敬氏、森脇章夫氏

管野氏から同協議会の活動について話があった後、森脇氏がスライドを用いて、会の活動拠点である環境会館の写真や公園整備地区、一庫ダムなどを紹介した。

〔説明要旨〕

〇「川西の嵐山計画」実現に向けて

・同協議会は地元住民により結成。環境会館を拠点に、昭和 59 年度から川西市出在家地区～小花地区南部の約 2.0 ㎞を「市民のための水上公園」にしようと、「川西の嵐山計画」をテーマに猪名川再生計画を進めている。

〇ボランティアの手で管理、にぎわう公園

・整備地区は阪神高速池田線の高架下にあり、阪神高速道路公団が貸与してくれた土地。遊具はほとんど住民有志の手作りだ。管理は行政の力を借りることなく、10 数人のボランティアが草刈りなどに携わっている。

・公園は平日でも多くのバーベキュー客でにぎわい、「わざわざ山まで行かなくてもバーベキューができる」と喜ばれている。会としては、せせらぎを利用してビオトープを作り、「エコフェスタ」というイベントを行い、多くの人が参加してくれている。

・ボランティア活動を通して、「川を守ることは行政に任せるのではなく、自分自身、さらには住民みんなで自主的に行動することが大事だ」と痛感している。

（主な意見交換）

・ボランティアの人たちが公園を自主管理しているそうだが、活動内容をもっと詳しく教えてほしい。（委員）

→例えば今年は約 2㎞ にわたってコスモスを植え、手入れをしている。また日曜日にバーベキューに来るお客さんのために、事前に掃除も行っている。活動は毎週火曜と木曜。ただ、雨が降ったら曜日に関わらず公園を整備し、参加も週 2 日厳守ではなくできるだけ参加と、あくまでも柔軟な活動。メンバーは「仕事」としてではなく、「自分のやりがい」として参加している。（発表者）

・少雨傾向にある昨今、ダムを作らざるを得ないと思うが、その場合自然をある程度壊すことになる。良い渇水対策はないだろうか。（委員）

→昔は家の周りに水田や森林があるなど、身近に「水の循環」が存在した。少雨化の問題は、水の循環が絶たれてしまったために深刻化しているのではないだろうか。これからは、ダムを作るという方法ではなく、「この地域に降った雨をこの地域から逃がさない」対策を住民と地権者が協力して実行すればいいと思う。50 年を費やして壊した水田や森林は、同じように 50 年費やしてでも作り直せばいいのでは。（発表者）

３．一般傍聴者の意見、委員との質疑応答

・昨年、猪名川は汚水度がワーストナンバー３だった。先日川西市役所の環境課へ行くと、「原田下水処理場から出るところで計測した」と言われた。阪神北県民局の環境課では測定場所をはっきり言わなかった。下水処理場近くで測定すれば、悪い数値が出るのは当然。きちんとした測定場所を決めるべきだ。（一般傍聴者）

・最近の中高生のほとんどが日本の将来に期待していないというデータがある。私は飽食の時代を作ってきた世代として、そのことに責任を感じ、子どもたちにきれいな川を残そうと「川西市民の水と空気と緑と健康を守る会」というグループを立ち上げた。西さんのクワガタ同様、私は魚を通して人と自然との結びつきを考えていくつもりだ。川西は空気が良く、緑も多い。さらに木を植えていけばもっといい街になると思う。（一般傍聴者）

→上流部分をはじめ、猪名川はすばらしい川だと思う。しかし、例えば松の木の寿命が 30

年しかないように、川や山は長い間同じ状態ではない。環境というのは非常にややこしく動いていくものだということを考慮に入れて、将来の猪名川の姿を想定して川づくりを考えていくべきだろう。（委員）

→バブル期にはにぎわっていた猪名川水源近くのゴルフ場も、今では人が少なくなっている。それにもかかわらず、農薬散布は続けられている。水源近くで土壌が汚染されているのは問題だと思う。（部会長）

・ダム建設とまちづくりは全く別の話である。どうすれば地域発展につながるのか、行政と市民がもう一度しっかり協議した方が良い。（一般傍聴者）

※本資料は部会の概要をお伝えするため作成したものです。